

令和5年度 第2回鹿児島市清掃事業審議会 会議概要

【日 時】

令和5年12月8日（金） 14時00分～14時45分

【場 所】

市役所東別館11階 1101会議室

【出席委員】

井上委員、飯塚委員、川崎委員、倉元委員、末永委員、多以良委員、田尻委員、野本委員、前田委員、三原委員、宮竹委員、柳井田委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 家庭ごみマイナス100gの状況について
 - (2) その他
- 4 閉会

【議事概要】

① 家庭ごみマイナス100gの状況について

委 員：令和5年の8月から9月にかけて、家庭ごみ量が大きく減ったり、3グラム増えたりと増減しているが、要因を把握していれば教えていただきたい。

事務局：令和5年9月については、前年の9月に台風の来襲があったことからごみ量が増えたが、今年は台風がこなかったためごみ量が減少した。また、10月については、その年の基準となる鹿児島市の人口数値を見直しており、前年10月と比較して人口が2600人程度減少したことで分母の数字が変わり、ごみ量が増えた計算となった。

委 員：コロナが5類に変わってからの5月以降、生活様式の変化でごみの量に変化があったと思うが、組成調査を定期的にする中でどのようなごみの種類が少なくなったのか。

事務局：家庭ごみの計画収集における11月までの累計でいうと、対前年度との増減率では、もやせないごみが約8パーセント、もやせるごみおよび粗大ごみがそれぞれ約6パーセントの減少率となっている。組成調査については、コロナの影響による顕著な変化は出ていないところである。直近1年間では、2月頃にコロナの5類移行が発表され、実際に5月8日から移行したことで、令和5年2月からごみ量が大きく減ってきたと考えている。

委員：剪定枝の戸別収集は、ごみ減量に貢献したのか。

事務局：剪定枝については、令和4年度で433トンを回収しており、市民1人1日当たりで考えると、2グラムとなることから、一定程度の効果があったものと考えている。

委員：金属類や剪定枝の資源化のように、今後、資源化するものを分別する予定があるか。

事務局：今年度はプラスチック製品の分別を進めるため、プラスチック容器類との一括回収などの実証実験を行っているところである。

委員：ごみ分別アプリ等について、外国語に対応しているのか。

事務局：ごみ分別アプリについては、現在、英語や中国語などの6ヶ国語に対応しており、文字もこの言語で表示されるようになっている。また、ごみ出しカレンダーについては、現在、4ヶ国語に対応しており、来年1月から4ヶ国語増えて8ヶ国語に対応になる予定である。

委員：プラスチック製品の資源化実証実験について、具体的にリサイクルされた後はどういったものに生まれ変わるのか。

事務局：現在、プラ製品の回収を行っているが、今後分別等を行った後、どういったものに生まれ変わるのかも含め実証実験をしているところである。リサイクルの一つの形態としては、コンテナの下に敷くパレットなどになることが一般的である。

委員：令和5年9月時点で目標値の470グラムを達成したが、来年度以降、どのような目標値を目指していくのか。

事務局：第四次鹿児島市一般廃棄物処理基本計画の令和13年度における数値目標である、市民1人1日当たりの家庭ごみ量を437グラムの達成に向け取り組んでいく。